

技術部会シンポジウム技S-4 「認定高気圧酸素治療専門臨床工学技士」 認証にあたって、求められる「行動能力」

田代卓良

特定医療法人札幌白石脳神経外科病院 看護部

【はじめに】

公益社団法人日本臨床工学技士会では、平成25年春に高気圧酸素治療業務検定試験を行う予定にある。治療に携わる看護師、臨床工学技士の指導者育成を目的に検定試験を行い、その後、研究・経験その他の業績に応じて日本臨床工学技士会は、「認定高気圧酸素治療専門臨床工学技士」を認証する。

生涯教育に欠かせない指導者育成研修を通して、技士の質的、技術的、人間性をも育成するための教育事業を予定されており、治療施設での治療の質の向上と安全性向上に寄与することを目的とされる。

本件に関し、当院での職員教育を振り返り「認定高気圧酸素治療専門臨床工学技士」認証にあたって、求められる「行動能力」について考察する。

【本論】

医療界は今、日本の高齢者の割合が増え続け、2011年の平均寿命は男性79.44歳、女性85.90歳。認知症高齢者は2002年約150万人、2025年約320万人になると推計される。医療技術の高度化・移植医療・患者の重症化・患者のニーズの多様化があげられ、医療に求められているものとして「チーム医療」「倫理上の配慮」「患者の視点の重視とQOLを高める医療と看護」がある。在院日数の短縮化の中でより安全で効率的かつ質の高いケアの提供が求められている。また、看護師のみならず医療提供者のコンピテンシーも問われている。看護においては2009年卒後臨床研修における「努力義務化」により看護職本人の責務として卒後の研修の受講に努めることが規定された。これは、一人一人が自己の卒後教育に責任を持ち、自己を育ててゆく責任が課されたということであり、卒後、知識や経験を積み重ねながら看護専門職としてのコンピテンシーを養う必要があるということである。

基礎学力や専門知識等の技術的能力は卒前教育

や入職後の教育を通して後天的に身に付けさせることはできると考えるが、コミュニケーション能力やバイタリティー、積極性や協調性などは入職後の教育や研修などで容易に行動変容につなげることが難しい。また、それらは人の内面に基づいた行動能力であり、性格やもののとらえ方、姿勢や興味、動機などが根底にある。「認定高気圧酸素治療専門臨床工学技士」は高気圧酸素治療において専門的立場から医療チームの一員として治療に参画するための能力と適正を備え、他の医療者や患者等に対して適切な助言および行動が出来ることが求められる。また、「認定高気圧酸素治療専門臨床工学技士」は、その役割や機能をさらに明確にし、医療分野において重要な位置にあるという社会的評価の獲得に向けた努力を蓄積し発信していく必要もある。基礎学力や専門知識等の技術的能力に加えて、コミュニケーション能力やバイタリティー、積極性、協調性等の行動能力が重要であると考えられる。組織においてチーム医療を展開し様々な職種と仕事を行っていくうえで必要となる能力「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」(社会人基礎力:経済産業省定義)これらの日々積み重ねの上に専門職としての実践と成果がある。そのうえで、異なる価値観を持った後輩等も含め各々に対し、それぞれのニーズを理解し専門職としてのキャリア開発と目標管理を支援する役割がある。

【おわりに】

認定高気圧酸素治療専門臨床工学技士としてその役割や機能を遂行するためには、専門職としてのコンピテンシーを明らかにし、組織化された教育プログラムと継続教育の構築が重要と考える。また、教育や臨床の場における現状と課題を通して、今後の方向性を探ることが不可欠ともいえる。